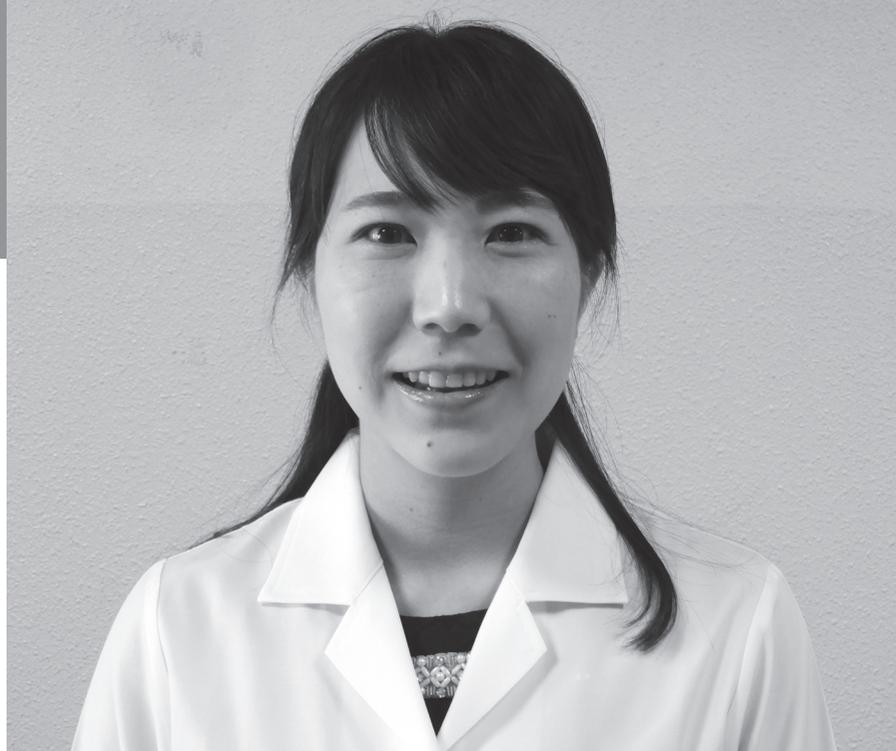


INTERVIEW

小竹町立病院
日野有美香先生



地域で働く女性医師として

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

へき地勤務で結婚・出産

山田隆司(聞き手) 今日小竹町立病院(福岡県)の日野有美香先生にWebでお話を伺います。日野先生は6月に開催された「第15回 へき地・地域医療学会」で、平成29年7月の九州北部豪雨で被害にあった東峰村でのご活躍ぶりを発表され、高久賞を受賞されました。今日は義務年限の9年間を振り返ってのお話と、その中で先生が学会発表や論文投稿などに取り組みされてきた経緯、そして現状と今後について伺えればと思います。また今、自治医科大学の卒業生・在学学生は女性の比率も高くなっていますので、今後の女性医師のキャリア形成について、後輩に対してのご意見やアドバイスをいただければと

思っています。

まずは、先生が大学を卒業されてからの履歴を簡単に紹介していただけますか。

日野有美香 私は2014年3月に自治医大を卒業し、卒後2年間は福岡市内にある九州大学病院で初期臨床研修をしました。3年目に飯塚市立病院へ派遣され、4・5年目に東峰村立診療所へ診療所長として派遣されました。東峰村赴任中に結婚して子どもを出産し、育児もしつつ、医師6年目から今の小竹町立病院で今年度まで4年間過ごしています。

山田 4・5年目で東峰村へ赴任して、そのときに結婚して出産されたということですが、一人医師

で、産休中はどうしたのですか。

日野 妊娠期間中は状態も安定していたので、ぎりぎりまで働かせていただき、私が産休を取っている間は、近隣の朝倉医師会病院と地域医療振興協会の飯塚市立病院から代診医を派遣してもらいました。育休をとらず復帰したので、3ヵ月程度お世話になった感じですね。

山田 代診の手配などは、誰に相談してお願いしたのですか。

日野 もともと東峰村での私の研修日に飯塚市立病院から整形外科の吉田拓也先生(福岡県16期)と小児科の穂吉秀隆先生(福岡県16期)が週替わりで来てくださっていました。妊娠が分かった際に東峰村の保健福祉課の課長さんから飯塚市立病院の管理者の武富章先生(福岡県6期)に相談してもらい、飯塚市立病院から代診医を派遣してもらえることになりましたが、それだけでは人員確保が厳しいということで、朝倉医師会病院にも協力を依頼しました。

山田 結婚されたお相手は自治医大卒業生ですか。

日野 他大学のドクターです。

山田 ではパートナーの方の理解も重要でしたね。

日野 そうですね。結婚したのが冬だったのですが、東峰村は福岡県の中でも山間部の豪雪地帯のため、雪がかなり降り積もり、運転が苦手な私は凍結した峠道を怖くて下ることができませんでした。そのため、結婚してしばらくは、1週間

に1回程度、村民の方が車を運転してくださり、峠を越えて帰宅するという単身赴任のような感じで生活をしていました。夫は大学病院勤務なので、私の診療所での仕事がイメージしづらかったようですが、義務年限中、相談相手になってくれたり、家事や育児を手伝ってくれたりとずっと支えてくれ、本当に感謝しています。

山田 へき地赴任と結婚、出産、育児というのは、女医さんにとってはやはり厳しいものがありますか。

日野 夫や自分の父母、義理の母の助けがあったからできたと思っていますし、周囲の理解はやはり重要だと思います。東峰村では村役場の人や診療所の看護師さんが「子どもが病気の時は休んでいいよ。お母さんがそばにいてあげないと。全村放送をかけて『診療所は休診です』と流せばいいだけだから」と言ってくださり、すごく心強かったです。事前に対応策を決めておいたことで子どもが急に発熱しても焦らず、まず役場の課長さんや看護師さんに連絡して対応してもらいました。出産や育児と初めてのことがかりで不安も大きかったのですが、周りの温かい言葉がけやサポートに何度も助けられました。

山田 女性医師が安心して仕事をしながら、出産し育児ができる環境がもう少し整うといいですね。

共に被災したことから得た村民との共感

山田 先生が高久賞演題で発表した被災というのは、結婚や出産をされる前ですか。

日野 そうです。4年目からへき地勤務になりました

ですが、当時は結婚もしていなかったので、一人診療所へ行ってみたいと私から県庁に希望し、派遣してもらいました。そして、赴任してわず